

淡海観光ガイドの友

第 45 号

発行日 令和 5 年 10 月 2 日

発行 淡海観光
ボランティアガイド
連絡協議会



会長就任にあたって

淡海観光ボランティアガイド連絡協議会
会長 森島 和 男

今年の総会において、会長に選出されました、大津南部ブロックの古都おつ観光ボランティアガイドの会の森島和男です。会則により2年間務めさせていただきますので、ご支援とご協力よろしくお願い申し上げます。

連絡協議会会則の目的に「観光ボランティア相互の連絡調整と発展を図りながら、滋賀県の観光振興に寄与することを目的とする」とあります。6月7日に4年ぶりに全体交流会が開催されました。近江八幡観光ボランティアガイド協会と安土町観光ボランティアガイド協会の支援で、400名以上の方が参加し、無事成功裏に終了しました。分科会では参加者の意見交流が行われ、まさに会則の目的に沿う行事でした。来年度は湖東ブロックで開催の予定です。

昨年、滋賀県の観光客が4,500万人を超え、前年度より大きく増えました。観光ガイドの活動も増えたことと思います。今年5月に新型コロナウイルス感染予防の規制も解除され、観光客が増えることが予想されます。しかし、コロナ感染が収束したわけではありません。私たちのガイド活動において、観光客の安全を考慮してゆかなければなりません。

連絡協議会が設立して22年になります。歴代の会長、事務局、各ボランティア観光ガイド団体のご協力と支援のおかげで今日があります。連絡協議会の発展を祈念して、少しでも力になれるように努めてまいります。よろしくお願い申し上げます。

令和5年度 交流研修会報告

◆ 商人コース

彦根ボランティアガイド協会 小野 隆

商人コースの参加者は74名で彦根は30名全員がまとまって応募しました。歴史深い近江八幡の街並みを約1時間でガイドさんに案内していただき偉大な八幡商人のルーツを垣間見ることができました。商人の本店が並ぶ新町通り一帯は、重要伝統的建造物群保存地区ですべてが整備され見越しの松も立派に手入れされています。こんなに広い範囲が昔どおりに



整備して残されていることに、行政と市民の熱意の賜物と感服しました。郷土資料館の「西川利右衛門邸」は宝永3年(1706)の建造で近江商人の家庭様式が多く残されて懐かしさがよみがえる数々の道具類を拝見。帳場、台所、また玄関に向かって摺り上げ戸と跳ね上げ戸がありました。裏庭には、3階建ての立派な土蔵が残されていて、主屋とともに重要文化財に指定されています。歩を進めると大きい道路の向こうに西川甚五郎家

の住宅が構えていて現在の大会社の繁栄を物語っています。

趣のある瀟洒な白雲館を背にして、日牟礼八幡宮の鳥居をくぐって石段を下りるとテレビや映画によく登場する八幡堀です。豊臣秀次が産業振興に力を注いで湖上交通に着目し、琵琶湖から城下へ荷物が入るように整備した堀です。荷の積み下ろしをする港を浜と呼び7か所あったとのこと。広い港は石段が長く多くの荷物が積み下ろしされて活気がみなぎっていたことでしょう。現在は観光に寄与して周辺を眺めながら進む屋形船が行き交って良き風情をかもしています。漆喰塗りの蔵が並び厚い舟板が壁を覆って耐火のおまじないにされているとの説明をお聞きし、なるほどと感心しました。

街並みに戻り、この街で昼食の接待を受けた朝鮮通信使一行が次の宿泊地の彦根城下を目指してにぎやかに進んだ朝鮮人街道を歩きました。当時は、きっと両側にはいっぱい町民が並んで大歓迎したことでしょう。

立派に整備された素晴らしい街並みに圧倒された楽しい研修会でした。

◆ 秀次コース

近江八幡観光ボランティアガイド協会 成田 淳



山頂から見る景色も素晴らしいものがありました。

ロープウェイは山麓駅から比高差157mを4分で運んでくれます。ロープウェイ代は往復で890円ですが、ロープウェイを運営する近江鉄道株式会社の御厚意で、今回の交流研修会は無料で乗船させて頂きまし

た。

ロープウェイを降り、西の丸、北の丸を回り、瑞龍寺に行きました。時間的な問題で、瑞龍寺の内覧は出来ず、また、勾配の急な出丸へも行けませんでした。またゆっくり訪問して頂けたらと思います。

参加メンバーも、同じガイド協会の方が一人もいないというメンバー構成だったのですが、皆さんよくお話になっていらっしゃいました。やはり、いつもガイドしていらっしゃって、知らない人とお話する技術を持っていらっしゃるのでしょう。分科会でもまとまりのない話が多かったですが、皆様楽しんでお話をされていらっしゃったのは、さすがだと思います。

◆ ヴォーリスコース

草津市観光ボランティアガイド協会 高市 寿美子

近江八幡市へは何度も訪れ、ヴォーリス建築も好きな訪問先ではありましたが、人となりと建築についてもっと深く知りたいと思い躊躇なくこのコースを選びました。

お天気恵まれガイドさんと16人の班で出発。前もっての案内ではハイド記念館、ヴォーリス記念館、市立資料館、旧八幡郵便局などがありましたがそれ以外にも訪問先が目白押し。ガイドさんには厳しい時間配分だったに違いありませんが常に笑顔とユーモア、気配りを絶やさず案内して頂き、参加者は皆この研修を満喫された事と思います。

今回ご案内頂いた中で特に心に残ったことはヴォーリスの「建物の風格は、人間と同じくその外見よりもむしろその内容にある」との信条のもと、日本建築が客間に重点を置きがちなのに対し「我が家の究極の目的は住まう人の健康と幸せ。HOUSEではなくHOMEである」と住みやすさを最優先に

全ての建物に十分な採光、換気、暖房、安全などに配慮されている点でした。だからこそ日本全国1600に及ぶ彼の設計による建築が残る事に納得です。

もう一つは分科会でお聞きした、近江八幡観光ボランティアガイド協会の新人研修への強力なバックアップ体制です。ガイドによるバラツキを防ぎ質の高い案内ができるよう3年間のフォローアップ研修があり、先輩についての同行研修や役員クラスの方が客になって案内や誘導の仕方まで指導されるそうです。こうした丁寧なご指導とガイドさんの精進のお陰で今日私たちは素晴らしい研修会が持てたことに心より感謝いたします。



◆ 通信使コース

みなくち観光ボランティアガイド部 吉田 泉

朝鮮通信使「八幡山の宴」

朝鮮通信使コースに参加しました。近江八幡は関白秀次が築城の時、城の南面に縦状に碁盤の目に町割りをした縦町（たてまち）です。水口は同時期に水口岡山城が築かれ城と平行に三筋町にした横町です。横町に慣れているせいか解りづらかったのですが、一本京へ向かっている京街道がありそれが朝鮮人街道でした。この道は関ヶ原合戦の時、家康側がすぐに早馬で京都へ勝利を知らせた道で家康にとっては縁起のよい道でした。その為外国の使節を迎えるときや家康が上洛のときに使いました。そして参勤交代には使わせなかったと説明がありました。



享保四年に水口藩の第五代藩主加藤嘉矩（よしのり）が徳川吉宗の八代将軍に襲職（就任）した時、通信使の接待役を命ぜられ八幡別院に来ています。この時水口藩の御茶園製の煎茶を献上しています。

また私の想像ですが、水口藩の書家 巖谷景雲の書なども持参したのではないかと考えています。

近江八幡は昼食時の休憩地で、旧伴家住宅には豪華な通信使の中食が復元されています。宿泊や昼の休憩時は唯一国交がある外国との交流の場として、文人たちと詩文の交換などが行われ、他に沢山の見物人で町中が賑わいました。これを「八幡山の宴」と言うのだそうです。

◆ 武佐宿コース

近江八幡観光ボランティアガイド協会 平松 清廣

「中山道 武佐宿コースをご案内して」

今回「武佐宿コース」には、65名の参加があり、その内の15名の皆さんを今回担当させていただきました。

主会場の文化会館をバスで出発して武佐宿までは約15分の道のりですので、車中では「近江八幡観光ボランティアガイド協会の概要と現状」について、同乗の皆様にお話をいたしました。当協会について、少しでもご理解を願えたとしたら幸いです。

武佐コミセンでは、近江八幡市の「市の花」「むしゃりんどう（武者竜胆）」が展示されていて、丁度花盛りでした。当協会員でもある成田傳良さんが「むしゃりんどう保存会 代表」をされていて、成田さんの説明を受けた後、コミセン内で分科会となりました。

分科会では、メインテーマをもう少し深掘して、「対策の事例紹介」を中心に、奥びわ湖観光ボランティアガイド協会の富永前会長の名司会で進められ、充実した時間を過ごすことができました。



その後、現地研修を約1時間ご一緒させていただきましたが、熱心にお聴きいただき、するどい質問も中にはあって、さすがガイドの皆さんは博識だなとかえってこちらが勉強させていただきました。

暑い中をお疲れさまでした。また、ご協力ありがとうございました。

◆ 安土城下町コース

マキノまちづくりネットワークセンター 川添 宏司

県内交流研修会に参加して

安土城下町コースは82名の参加者が5班に分かれ研修を受けました。

コースのスタートにJR安土駅を訪れました。現役のところ見た駅舎の面影はなく、立派な駅舎となっており安土城の玄関口に相応しいたずまいに感心しました。

最初に旧伊庭邸を訪問。ヴォーリズの設計と言われる建物は、洋風の木造住宅で大正時代の建築とは思えない、洋風と和風が融合したモダンな建物は現在も威厳を保ち、建築当時人々の驚きは大変なものだったと思います。二番目に訪れたのは浄厳院（じょうごんいん）で重厚な山門に目を奪われました。信長によって建立されたと説明を受けた。浄土宗の総本山として、また浄土宗と法華宗の間で宗論が交わされ「安土宗論」の舞台になったといわれます。重要文化財も多数あり歴史的にも変遷があり改めて訪れたいと思います。

最後に沙沙貴神社を訪れ、延喜式神名帳にも記載され

た厳かな社殿に参拝しました。現在の建造物は県指定の重要文化財となっているとのことです。ご祭神は四座・五柱が祭られており、5月の「なんじゃもんじゃ」は有名でマスコミで報道されることが多いです。

天候に恵まれ暑い日となりましたが、全員元気に無事研修を終えることができました。

研修終了後、参加者で分科会を実施。

分科会は班ごとに実施。私達は安土コース1班で大津・草津・栗東・湖南・東近江・日野・竜王・愛荘・米原・高島・安土の11団体が参加。分科会のテーマは決まっていたが時間が短く各団体とも現状と問題点についての発表にとどまり、殆どが会員不足、高齢化の悩みの中で運営されていることでした。



TOPICS

「草津と家康」

草津市観光ボランティアガイド協会 森 健蔵

NHKの大河ドラマ“どうする家康”も佳境に入ってきましたが、草津はこの家康と拘わりが大変強かったので、今回トピックスとしてお伝えします。

家康が歴史上草津に現れるのは、秀吉が伏見城で五奉行・五大老制を敷いた時で、琵琶湖の舟奉行であった芦浦観音寺宛てに五大老筆頭の徳川家康名で420石の寺領安堵の書状が届いたのに始まる。この時代芦浦観音寺は織田信長が天下取りの動きを見せて近江に進出し、琵琶湖の水運の重要性から呼びかけたのに呼応し天下の舞台に登場していきますが、本能寺の変の後、秀吉とも更に親密度を加え9世詮舜などは信長によって焼かれた比叡山を秀吉の寄進援助により再興、朝鮮征伐のときには肥前名護屋に参陣している。秀吉が亡くなり、1600年遂に天下分け目の関ヶ原の戦いとなる。秀吉との親密な関係から芦浦観音寺は当然石田三成の西軍に組し、毛利軍が関ヶ原参陣の行きがけの駄賃にと京極高次守る大津城を攻めかかったが、大津城は殆ど水城で陸から如何程大軍で攻めても落ちないところを芦浦水軍が湖から攻めてやっと開城させたのが9月15日、この時には既に東軍の勝利で決着がついていた。どうする家康ならぬどうする観音寺、戦々恐々様子を見ていた観音寺に9月18日「都へ登るので矢橋から船で渡せ」と家康から使者が届いた。そして翌19日には草津常善寺に宿陣した。さすが天下人家康、小敵を潰すのでなく味方につけて役立てた。天下を治めた家康は、信長は草津を水運上重点地に認めたがその上に更に陸運上の要地と認め、全国に五街道を敷く上で、筆頭の東海道・中山道の出会う宿場を開き、その後秀忠・家光が継続して力を入れ、草津宿は全国有数の宿場街となった。



“らんまん”たる伊吹山のお花たち

米原観光ボランティアガイド協会 北村 哲雄

7月後半、伊吹山頂は最も美しい時期を迎えています。もちろん爛漫と咲く天然記念物「伊吹山頂草原植物群落」のお花たちのことです。

現在放映中のNHK朝ドラは榎野万太郎（牧野富太郎）を主演とする「日本植物学の父」誕生のお話です。26歳で結婚する妻は滋賀県ゆかりの元彦根藩士の娘で西村寿恵子（小澤壽衛）。

私たちはドラマが始まると伊吹山がいつ出てくるか興味深く見続けました。東海道を車が走る前の明治14年、初めて上京した帰りに伊吹山に登っているからです。生涯では8回も訪れています。しかし期待はみごとに裏切られました。どうやら植物採集先は映さない方針のようです。



しかし今、私たちは思わぬ伊吹山ガイド依頼にてんてこ舞いしています。旅行会社が山野草に魅了された高齢者を伊吹山お花畑に送り込んでくるからです。受け切れなくてお断りもする一方、ガイドの仲間で地域に名を売る植物通をリーダーにして度重ねて現地研修を行い知識を蓄えています。春から夏、夏から秋へ刻々と変わるお花たちに翻弄されながらも…。お花ガイドの苦手な者は、ドライブウェイのバス中で伊吹山のすごい存在を話します。牧野富太郎と伊吹山、世界記録の積雪、信長の薬草園、七高山と修験道、伊吹山寺等々。

そのお花畑が今大ピンチを迎えています。鹿による獣害の拡大です。7月15・16日に三日月知事の視察がありました。是非とも植物の宝庫を守っていただきたいと願うところです。

編集後記

令和5年5月8日から、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行となりました。

直近の旅行・観光消費動向や訪日外客数もコロナ禍前の8割程度と発表されていますが、会員の皆さんの観光案内などにおいても実感されていることと存じます。

今年6月には、4年ぶりに近江八幡市において、交流研修会を開催いただき、大盛況のうちに幕を閉じることができました。関係者の皆さんには大変お世話になり、ありがとうございました。

また、琵琶湖を始めとした自然と歩みをそろえ、ゆっくり、ていねいに暮らしてきた滋賀の時間の流れや暮らしを体感することで心のリズムを整える新たな旅、滋賀・びわ湖ニューリズム「シガリズム」を提案しています。

<https://shigarhythm.biwako-visitors.jp/>

お問い合わせ

淡海観光ボランティアガイド連絡協議会事務局（（公社）びわこビクターズビューロー内）担当：船橋・榎原
〒520-0806 大津市打出浜2番1号「コラボしが21」6階 TEL077-511-1530/FAX077-526-4393